



旧村上ファンド系「シティ」が動きを加速、アークランズを標的に加える



旧村上ファンド系投資会社のシティインデックスイレブンス（東京都渋谷区）による大量保有報告書（5%ルール）の提出が活発だ。シティの提出件数は今年に入って累計51件（10月19日時点）に上るが、その半数以上に当たる26件が8月以降に集中している。10月初めにはホームセンター大手、アークランズ<9842>の5%超の新規保有が判明した。

8月に5%超の新規保有が分かったベンチャーキャピタル（VC）最大手、ジャフコグループ<8595>を巡っては買い増しを進めた結果、シティの保有比率は16.71%まで高まっている。

アークランズ株、買い増しに出るのか

シティインデックスイレブンスの大量保有報告書（変更報告書を含む）提出状況をみると、1月1件、2月と3月各2件、4月11件、5～7月各3件で推移し、8月に11件に跳ね上がった。9月8件、10月もここまで7件と高水準を保っている。

アークランズ株式の5%を超える新規保有は10月4日、シティが提出した大量保有報告書で明らかになった。保有比率は5.06%（共同保有分を含む）。

アークランズはアークランドサカモトが子会社のビバホームを合併して今年9月に新社名でスタートした。ビバホームは元々、住宅・建材大手LIXILの傘下企業で、アークランドサカモトが2020年に約1085億円で買収した。

そのアークランズは、とんかつ専門店「かつ家」を展開するアークランドサービスホールディングス<3085>を上場子会社として抱える。

シティが今年に入って新規保有した銘柄は今回のアークランズをはじめ、ジャフコ、ホシデン<6804>、住友大阪セメント<5232>、クレディセゾン<8253>、コスモエネルギーホールディングス<5021>、日清紡ホールディングス<3105>の7銘柄。

これらのうち、新規保有後に買い増しを進めたのがジャフコ、ホシデン、コスモの3銘柄。直近の大量保有報告書によると、シティの保有比率はジャフコ16.71%、ホシデン7.07%、コスモ16.35%に高まっている。

シティはコスモエネルギーホールディングス株式をすでに16%超保有する（写真は都内で）

一方、住友大阪セメント、クレディセゾン、日清紡についてはいったん5%超を新規保有したものの、現在の保有比率は4%前後に低下している。

こうした中、シティが今後、アークランズ株式をどこまで買い増すのか、出方がマーケットの注目を集めている。

セントラル硝子、500億円の自社株買いへ

シティの保有比率が10%を超える銘柄はジャフコ、コスモのほか、東亜建設工業<1885>（11.36%）、中国塗料<4617>（13.51%）、セントラル硝子<4044>（28.05%）。

このうち、セントラル硝子は9月下旬、最大500億円の自社株買いを行い、シティなど旧村上系が保有する約30%（全株式）を買い取ることを発表した。旧村上系は巨額の売却益を手にする運びだ。

シティはジャフコに対しても500億円規模の自社株買いを要請している。

文：M&A Online編集部